

石高神社報

第三十号

社報三十号記念(ご挨拶)

昭和六十一年の社報創刊以来二十六年たち、このたび三十号を迎えることになりました。毎回総代さんをはじめ町内の役員の方々に配布していただきましてありがとうございます。紙面を借りて厚くお礼申し上げます。おかげさまで昨年は氏子区域の三十八町内で配布していただくことができました。

当初、氏子の皆様方に氏神様である石高神社がどこにあるのか知っていただき、つながりを深めることを目的に社報の作成を始めました。しかし、当初の目的はまだ十分には達成されていませんので、今後も続けていくつもりです。記事の内容は、繰り返し同じような記事の内容になると思いますが、今後も石高神社の紹介を中心に、しきたりや地域の歴史や地理遺跡を紹介して行く予定です。ひきつづきよろしくお願い致します。

石高神社略記

主祭神に大己貴命（おこなむちのみこと）と須勢理姫

命（すせりひめのみこと）をおまつりし、併せて八幡大神であられる仲哀天皇、神功皇后、応神天皇をおまつりしています。

当社の創立年月はよくわかりませんが、現存する神名帳で一番古い備前国総社神名帳（八六三年頃）に石高神社と載っています。

社伝によりますと、現鎮座地の北手にあります高倉山（石鉄山）の頂上に大己貴命をおまつりする石高神社があり、今の嶽字岩坪に須勢理姫命をおまつりする八幡宮がありました。この両社を天和三年（一六八三年）に現在の地に合祀し、岩坪八幡宮と称されています。その後、明治四年に旧号の石高神社にもどり、幡多郷の総鎮守産土神となりました。



発行日 平成二十四年十二月一日
発行者 石高神社 宮司 高原 章兆
発行所 岡山市中区円山八五三
電話 〇八六一二七七―九〇〇三

隨身門修復工事発注

隨身門修復保存を四年前より計画して修復費用の御寄進をお願いしています。しかし、春の総代会の時点では、約六百五十万円とはるかに目標額に達しておらず、再度趣意書を配布してご寄進をお願いすることになりました。その結果、秋の総代会の時点で、目標額に達する見通しがたちましたので、発注することとなりました。依頼業者は、国宝の建物も手がけておられる地元の新東住建工業です。

既に二度目のご寄進のお願いに回った町内もあります。これから伺う町内もあります。引き続き御寄進を継続して参りますので、どうかよろしくお願い申し上げます。総代のおられない町内には、二度目の趣意書は配布していませんので、ここに縮刷して掲載しました。世の中大変な時期ではありますが、先人たちの文化遺産を守るべく、なにとぞご協力を賜りますようお願い申し上げます。近隣の神社の社殿の新築改修も積極的に行われている中、当社においてもせめて隨身門だけでも修復して次の世代に伝えたいと願っている次第であります。



石高神社隨身門 修復費用ご寄進 再度のお願い

謹啓 氏子崇敬者の皆様におかれましては益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。石高神社では、隨身門の解体復元修理に向けて平成二十年からご浄財の寄進をお願いしてまいりました。この間多くの方々のおかげで協力をお願いしてまいりました。誠にありがとうございます。

しかしながら、平成二十四年五月の時点で 六百八十三万円と工事費用の九百万円には大幅に達しておらず、今だに工事に取りかかれない状態にあります。隨身門は神社にとって重要な建物のひとつであり、江戸時代末期の天保年間に建てられた貴重な郷土の歴史遺産でもあります。修復計画を途中で断念する訳にはまいりません。消費税増税をかんがみ、この度再度ご寄進のお願いを申し上げる次第でございます。

つきましては、誠にありがとうございます。何かと出費ご多端の折柄、誠に恐縮に存じますが、事情をご理解くださいませ。何とぞご支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、改めて氏子総代を中心に、後日ご家庭を訪問致しますので、その節は何とぞよろしくごお願い申し上げます。

記

- 一、現在のご寄進額 六百八十三万円
- 一、今回お願いする額 二百七十七万円

平成二十四年夏

岡山市中区円山八五三

石高神社

宮司 高原 章兆

氏子総代会一同

昔あつた建物 絵馬殿

昭和三十年ごろまで、境内の南東の隅に絵馬殿がありました。現在ブロック塀になっている所です。瓦葺の屋根に荒壁で土間の五坪くらいの建物でした。向かつて右側に入り口があり、その左側は窓になって中が見えるようになっていたようです。立派な絵馬があつたようですが、どうなつてしまつたのか、残っていません。中には、なぜか堅巖稲荷の社がありました。絵馬殿がなくなつてからしばらくは、社務所の縁側にありましたが、その後、絵馬殿の礎石を積んで現在の場所に納めました。

Q & A ③ 山の北も氏子？

質問 神社は操山の南側にあるのに、なぜ氏子区域が山の北側に多いのですか。

回答 神社略記の説明にあるように、昔、石高神社は操山系の頂上にありました。当時、山の北側は拓けており、多くの村がありましたが、南側は寒村で幡多郷の一部に過ぎませんでした。したがって、おもな氏子区域は山の北側でした。曹源寺の創建や新田開発に伴つて神社が南側に遷つたことから、現在のような氏子区域になっています。自動車社会になるまでは、山の北からは、沢田越しの峠を通過して西側の参道からお参りしていました。

石高神社のまつり

◎どんど焼きおよび古神札焼却祭

一月十四日以降の最初の土曜日を含む休祭日に行つていきます。古神札は事前にお祓いをしますので、数日前までにお納めください。平成二十五年は一月十四日(月)成人の日 午前十時より行います。雨天、強風の場合には十九日(土)に延期になります。例年どおりぜひご留意する予定です。

◎輪くぐり(夏祭り) 毎年七月三十一日晚

年の前半の罪穢れを祓うと共に茅の輪をくぐつて疫病から身を守る祭りです。事前に配布されたひとがたに住所などを書いて持ちください。夜店も出ます。

◎秋祭り 毎年十月三日から五日の三日間

このうち、三日の晩が氏子参りの日になっており、夜店も出ます。今年は十二件の夜店が出てにぎやかでした。

その他、初詣、節分のころまでに行う厄払い、十一月ごろ行う七五三詣で、などの行事があります。また、初宮参り、当病平癒祈願、自動車清祓、家祈祷、地鎮祭、各種清め祓い、神葬祭など随時受け賜つておりますので、お電話でご相談ください。次ページに平成二十五年の厄年祝年の表を乗せました。ご活用ください。

平成25年の厄年祝年

平成7年生	女 19歳
平成元年生	男 25歳
昭和56年生	女 33歳
昭和52年生	女 37歳
昭和47年生	男 42歳
昭和28年生	還暦祝
昭和19年生	古希祝
昭和12年生	喜寿祝
昭和9年生	傘寿祝
昭和元年生	米寿祝
大正13年生	卒寿祝
大正4年生	白寿祝

石高神社の場所と自動車参道

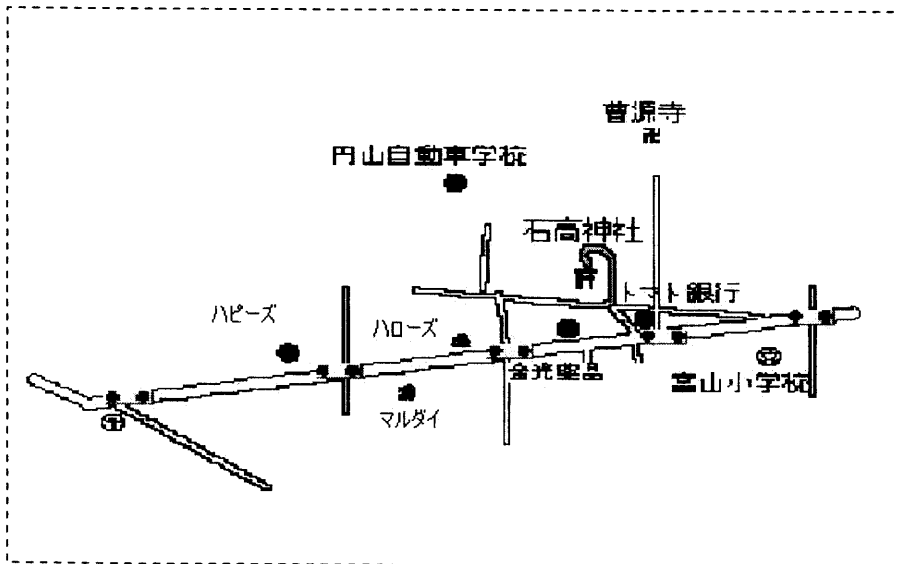
当社は富山小学校の北西、円山自動車学校と曹源寺の間の独立した小さい山にあります。この山の東側を山に沿って北に進むと北側から山に上がる参道があります。右に少し曲がりながら登ると本殿の裏に出ますので、ここに駐車すると便利と思います。坂を登った左側にも駐車スペースがあります。先日、山に沿った道の入り口と山の登り口に案内板を設置しました。

南側には、石段を上がる表参道がありますが、駐車スペースはありません。なお、宮山の裏手のカーブは見通しが悪いので、お気をつけください。元旦は混雑します。

福泊町内の皆様へ

吉備津岡辛木神社から配達地域指定郵便で石高神社の氏子区域にも封書が届いていると思います。宮司も変わ

って岡山県神社庁の教化モデル地区になったためです。氏子区域が変わったわけではありません。従来通り福泊の西部は石高神社、東部は辛木神社の氏子です。



宮司手作りの石高神社のホームページアドレス：

<http://www31.ocn.ne.jp/~ishitaka>

「石高神社」で検索すると出てきます。
行事の前後に更新しています。